

後期基本計画

重点目標 5

魅力あふれる拠点の創造と交通体系の確保

政策 **1** 未来を切り拓くためのまちづくり

政策 **2** 地域力の向上

重点目標 5

魅力あふれる拠点の創造と交通体系の確保

基本方針

「ネットワーク型コンパクトタウン」によるまちづくりを推進し、拡散型から拠点集約型へ都市構造の転換を進めながら、各地区の地域特性を生かした拠点づくりと各種生活サービスを充足し、効率的な都市経営を図ることで、人口規模がある程度減少しても都市機能が維持され、市民が安心して暮らせるまちを目指します。

また、伊豆縦貫自動車道の南進や基幹道路などの整備により、ヒトやモノの流れが強化されるとともに、市民の利便を低下させないための総合的な交通体系の構築を目指します。

政策イメージ

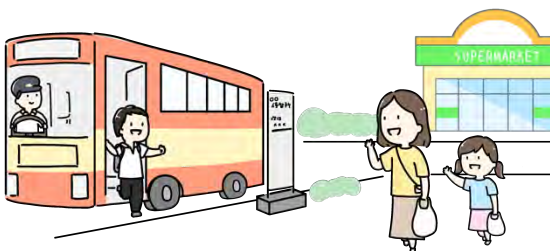
コンパクトタウン&ネットワークを実現するまち

未来を切り拓くためのまちづくり

人口減少・高齢化が進む
社会下でも維持できる
生活拠点の形成



中心拠点としての修善寺駅周辺整備
特色を活かした各地区の拠点
生活に必要な都市機能
良好な住環境



地域力の向上

地域の独立性や
連帯性の維持



地域づくり協議会などによる積極的な地域活動
多様性を認め合い育むまち
公共交通の維持
新たな輸送サービス



政策 1 未来を切り拓くためのまちづくり

人口規模がある程度縮小する中でも、必要な都市機能が維持されるよう、一定のエリアには病院やスーパー、学校、役所などの市民生活に欠かせない施設を集約していくとともに、魅力あふれるまちなみを形成していきます。また、快適な住空間創出のため、無秩序に住宅が拡散しないよう誘導を行いながら、持続性のあるまちの拠点づくりを進めます。

政策目標

◎ 人口減少・高齢化が進む社会下でも維持できる生活拠点の形成

居住環境に対する満足度 ▶ 向上

R2 基準値：70.1%（令和2年度市民アンケート結果より）

具体的
イメージ

修善寺・土肥・天城湯ケ島・中伊豆の各拠点地域における必要な都市機能 ▶ 維持

R2 基準値：102（行政、教育、商業、医療、交通等の施設数）

政策 2 地域力の向上

人口減少によって半公共的機能を担ってきた地域コミュニティの維持が難しくなっているため、地域の課題を自らが考え、創意工夫を重ねていくための組織として既に設立された8つの地域づくり協議会に加え、新たな協議会の設立を促進します。

また、地域生活交通を維持するため、利用しやすい公共交通の促進を図ります。

政策目標

◎ 地域の独立性や連帯性の維持

地域づくり協議会の独立性 ▶ 向上

R2 基準値：地域づくり協議会への財政支出額 39,322,715円

具体的
イメージ

自治会組織（区・郷）の効率化 ▶ 向上

R2 基準値：自治会数 128

政策 1 未来を切り拓くためのまちづくり

施策 1 中心市街地への都市機能の集約



本市の現状

- ☹️ 新中学校の建設に伴い、修善寺駅周辺の人の流れが増加する見込み
- ☹️ 修善寺駅周辺には空き店舗が点在しているが、店舗兼住宅が多いことから、借りることが難しい
- ☹️ 修善寺駅周辺には観光客が交流できる場や歩いて楽しめる場が少ない
- ☹️ 駅周辺の慢性的な交通渋滞が課題
- ☹️ 子育てママたちからは狩野川記念公園や六仙の里の魅力 UP が期待されている

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 修善寺駅周辺が本市の玄関口として良いイメージを持たれ、市民と観光客が交流し、にぎわいにあふれる場となっている
- 交差点改良などにより、駅周辺の交通渋滞が緩和している
- 子育て世代が公園に集い、子どもも親も伸び伸びと生活を楽しんでいる



改善

より良く

中心市街地への都市機能の集約に向けた 2 つの作戦

作戦 1

修善寺駅周辺整備を行います

作戦 2

安心して遊べる
身近な公園整備
を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 131 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 修善寺駅周辺整備

本市の玄関口であり中心市街地でもある修善寺駅周辺において、市民や来訪者の交流を創出するため、個性的なショップの誘致や伊豆総合高校と連携したにぎわいづくりなど、中心的な拠点づくりを進めていきます。

●主な取組

▶新中学校の建設
 (令和 7 年 4 月開校) (再掲)

交通渋滞緩和に向けた道路拡幅などの検討

立地適正化計画※の策定に向けた検討

個性的なショップづくりや空き店舗の活用

にぎわい創出のための西口広場の積極的な活用

【主な担当課】

都市計画課／観光商工課／企画財政課／地域づくり課／用地管理課／新中学校 WG

作戦 2 身近な公園整備

子どもの豊かな情操を育て、健全な遊びの場を提供するために、子育て世代が集える身近な公園の整備を推進し、コロナ禍においても密にならずに安心して遊べる環境を整備します。

●主な取組

▶(仮称) 日向公園の整備
 (令和 7 年度完成) (再掲)

狩野川記念公園の魅力向上

六仙の里公園の魅力向上

津波避難複合施設の建設
 (令和 5 年度完成) (再掲)

【主な担当課】

都市計画課／社会教育課／観光商工課／危機管理課

※立地適正化計画

コンパクトなまちづくりの形成を促進し、生活サービス機能を計画的に誘導していくために、おむね 20 年後の都市の姿を展望して策定する計画。

政策 1 未来を切り拓くためのまちづくり

施策 2 適正な宅地化の誘導



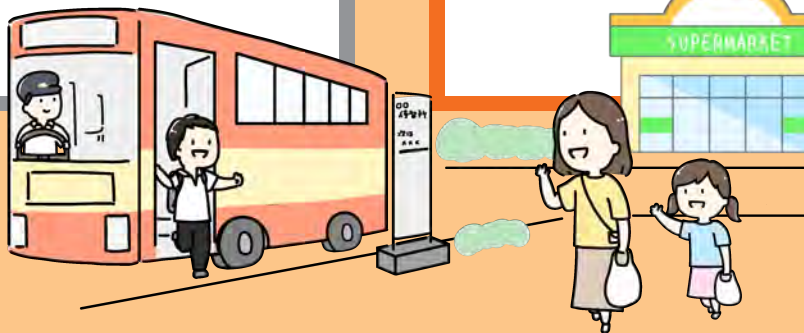
本市の現状

- 😊 牧之郷地区は、人口や世帯数が増加している（H28～R2実績：+61人、+64世帯）
- 😊 都市計画の見直しにより、鉄道駅から約1km圏内への住宅立地件数が増加。（H28～R2実績：延べ50件）
- 😞 農地などの規制により、住宅開発できる土地が少ない
- 😞 空き家のストックが少ない（空き家は多くあるが、貸してもらえない）
- 😞 各地区で小学校の生徒数が減少（H28～R2実績：土肥小△18人、天城小△40人、中伊豆小△34人）

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 拠点性の高いエリアの都市機能が維持され、不便なく日常の暮らしを営める環境が整っている
- 居住環境が整っていて、子どもやファミリー層が安心して暮らしていける
- 各地区の特色ある拠点づくりが進み豊かな生活が継続されている

改善



より良く



適正な宅地化の誘導に向けた2つの作戦

作戦 1

牧之郷駅周辺整備を行います

作戦 2

拠点性の高いエリアへの居住環境整備と空き家の積極的な活用を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 132 ページに記述しています
※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 移住・定住を促す牧之郷駅周辺整備

伊豆箱根鉄道と協力・連携し、地域住民や牧之郷駅利用者の利便性・安全性の向上を図るとともに、適切な土地利用の促進を図ります。また、移住・定住を促進するため、駅西口に駅前広場や連絡道路を整備します。

【主な担当課】
都市計画課

◎主な取組

▶ 牧之郷駅周辺整備
(令和 5 年度完成)

牧之郷駅周辺の基盤整備に伴う
民間開発の誘導

作戦 2 拠点性の高いエリアへの良好な居住環境の創出と空き家の積極的な活用

人口が減少していく中でも都市機能を維持するためには、一定の居住人口の確保が重要となります。

拠点性の高いエリアについては、2 項道路※¹ の指定や景観重点地区の手法による良好な居住環境の創出を促進します。

また、小学校のある土肥地区、青羽根地区、八幡地区周辺については、地区計画などの手法により安全で快適なまちづくりを進めるとともに、新たな住宅地の創出や活用可能空き家※² を重点的に活用していきます。

【主な担当課】
都市計画課／地域づくり課／企画財政課／資産経営課

◎主な取組

▶ 駅前地区周辺や温泉場地区周辺の良好な居住環境の創出

▶ 土肥地区・青羽根地区・八幡地区周辺にある活用可能空き家の積極的な活用（再掲）

土肥地区・青羽根地区・八幡地区周辺への住宅地の創出（再掲）

片づけやリフォーム補助による
空き家活用の推進（再掲）

※1 2 項道路

建築基準法制定前からあった幅員 4m 未満の道路に接している土地は、原則として建物の建築ができないが、既に建物が建っていた場合には、救済措置として、幅員 4m 未満でも「2 項道路」として建築基準法上の道路として認められる。

※2 活用可能空き家

建物の腐朽や破損がなく、大規模な修繕が必要ないため、簡単な手入れにより活用できる空き家。

政策 2 地域力の向上

施策 1 開かれた地域づくりの推進



本市の現状

- 😊 地域づくり協議会がまちづくりの主体となって活動を展開
- 😊 本市では女性の創業者数が県内トップなど、女性の活躍の場が多い
- 😞 社会全体として、多文化共生^{*1} やLGBTs^{*2} への理解が必要
- 😞 地域づくり協議会は採算性のある取組が少なく、自立的な運営が課題
- 😞 市域が広く、120 を超える行政区がある

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 市民が困りごとなく幸せに暮らし続けられるよう、地域づくり協議会などによる共助のまちづくりが行われている
- 地域づくり協議会が地域資源を活用し、自ら稼ぐ力を高めている
- 地域が多様性を認め、受け入れながら、お互いが豊かに暮らすことができるようになっている

改善



より良く



開かれた地域づくりの推進に向けた 2 つの作戦

作戦 1

地域づくり協議会の主体的な活動に向けた支援を行います

作戦 2

多様性を認め合う共生社会の実現に向けた取組を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 133 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 地域づくり協議会の活動支援と運用見直し

地域の課題を自らが考え、創意工夫を重ねていくために、既に設立された 8 つの地域づくり協議会に加え、新たな協議会の設立を促進します。

また、設立年数が 10 年を超えた協議会の段階的な自立を促し、地域資源を活用した稼ぐ力を高める主体的な活動を支援します。

【主な担当課】
 地域づくり課

◎主な取組

▶地域づくり協議会の自立に向けた支援

地域づくり協議会の設立支援

特色ある地域活動の支援・促進

作戦 2 多様性を認め合う共生社会の実現

性別や国籍などにとらわれない LGBTs の尊重や、お互いを理解して共に暮らしていく多文化共生の実現、外国人の受け入れ、男女が対等に責任を分かち合う男女共同参画への意識の向上など、それぞれの能力を発揮し、活躍できる社会づくりを推進します。

【主な担当課】
 地域づくり課

◎主な取組

▶LGBTs の尊重

多文化共生への理解

男女共同参画の推進

※1 多文化共生

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

※2 LGBTs

レズビアン（性自認が女性の同性愛者）、ゲイ（性自認が男性の同性愛者）、バイセクシャル（男性と女性両方を愛することができる）、トランスジェンダー（性自認と実際の性が異なる）に加え、あらゆる性的少数者が含まれることを表す複数形の「s」をつけた、セクシャルマイノリティ全般。

政策 2 地域力の向上

施策 2 地域生活交通の維持



本市の現状

- ☹️ 乗らない⇔便がないという負のスパイラルが発生している
- ☹️ 公共交通に関する満足度が低い（過去3年の平均 19.6%）
- ☹️ 不採算バス路線の自主運行（17系統）に約 6,200 万円（R2 実績）の経費がかかっている
- ☹️ 高齢者の運転不安にかかる免許返納を推進するためには、生活支援をセットで行う必要がある

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 公共交通と住民主体の足の支援がバランスよく整備され、市民が移動に不便なく暮らせる
- 地域交通を通じた支え合いにより、安心安全なコミュニティが形成されている
- 安心して学校に通える環境が整備され、不便なく登下校できる（再掲）

改善



より良く



地域生活交通の維持に向けた 2 つの作戦

作戦 1

公共交通の利用促進と
維持を
行います

作戦 2

地域の実情に応じた
住民相互の支援による
生活交通の確保を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 134 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 公共交通の利用促進と維持

市民の生活交通を確保するため、市独自の小中高生への通学費補助、高齢者バス利用助成などの利用促進策を講じるとともに、不採算バス路線に対する支援や高齢者福祉タクシー券の配布を行い、公共交通の維持に努めます。

●主な取組

小中高生への通学費補助

高齢者に対するバス利用助成

不採算バス路線に対する支援

高齢者福祉タクシー・鉄道・バス等利用助成券の配布

【主な担当課】

地域づくり課／健康長寿課／学校教育課

作戦 2 地域の実情に応じた住民相互の支援による足の確保

地域の実情に応じた効率的な輸送サービスの確保に向け、地域づくり協議会や交通事業者と連携した対応策を促進します。

また、運転に不安のある高齢者の事故防止のために、必要な支援をセットで検討しながら、運転をアシストする制度の啓発や免許返納にかかる運転経歴証明書の発行費用を助成します。

●主な取組

▶地域づくり協議会や交通事業者と連携した輸送サービスの確保

サポカー補助金※など、運転アシスト機能に対する啓発・支援

運転経歴証明書の発行費用の助成

【主な担当課】

地域づくり課／健康長寿課

※サポカー補助金

65 歳以上の高齢運転者を対象に、対歩行者衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い急発進抑制装置を搭載する車や、後付けのペダル踏み間違い急発進抑制装置の購入を支援する補助金制度。



旧土肥小学校 キャンドルナイト